

【事務局】

一般社団法人 熊本県社会福祉士会
 熊本市東区健軍本町1-22 東部ハイツ105
 TEL 096-285-7761
 FAX 096-285-7762
 E-mail kumacsw@lime.plala.or.jp
 URL http://kumacsw.com/



発行責任者 深谷 誠了
 編集責任者 田上 緒
 発行月 2023年8月



一般社団法人 熊本県社会福祉士会ニュース

CSWくまもと

Certified Social Worker

第77号

事業の報告と計算書類等を賛成多数で承認 2023年度 定時社員総会 開催



冒頭において挨拶する深谷会長

会場参加とオンライン参加の併用にて2023年度定時社員総会が6月24日に開催されました。

ホテルメルパーク熊本の会場から、熊本県社会福祉士会webプロジェクトチームによりオンライン(Zoom)でも発信され、多くの会員が傍聴できました。

司会進行を西田剛副会長が務められました。

当日の会場出席者37名と委任状提出者550名により、熊本県社会福祉士会正会員874名の過半数を越え、定款に基づき、総会が成立している旨が説明されました。

(定時社員総会の議題)

報告事項:2022年度 一般社団法人熊本県社会福祉士会 事業報告の件

第1号議案:2022年度 一般社団法人熊本県社会福祉士会 計算書類等承認の件

深谷誠了会長の挨拶のあと、議事に入り、議長は定款に基づき、深谷会長が務められました。

2022年度活動総括について、深谷会長から報告の後、塘林敬規副会長から事務局運営報告について説明がありました。続いて、委員会活動計画、ブロック活動計画について、会場に参加している委員長、ブロック長より報告がありました。

また、第1号議案 2022年度計算書類等承認の件が上程され、塘林敬規副会長から資金収支計算書、正味財産増減計算書内訳書、公益目的事業会計決算書等を基に報告がありました。

その後、高江康明監事より監査報告があり、計算書類等が賛成多数で承認されました。



議題について説明する塘林副会長

地域共生社会は For から With へ 2023年度 社会福祉セミナー 開催報告

公益事業運営委員 担当理事 魚谷 康洋

基調講演 『地域包括ケアから地域共生社会へ』

～制度の枠に縛られないソーシャルワーカー～



講師 猿渡 進平 氏（社会福祉士）

医療法人 静光園 白川病院 医療連携室長

1980年福岡県大牟田市生まれ。日本福祉大学大学院卒。医療法人静光園白川病院医療連携室長。社会福祉士。同居の祖母が認知症になったことが理由で福祉の道に進む。2002年医療法人静光園白川病院に入社。その後大牟田市地域包括支援センター、厚生労働省社会・援護局の出身などを経て現職。

- ・一般社団法人 人とまちづくり研究所 理事
- ・認知症未来共創ハブ 運営委員
- ・国立研究開発法人理化学研究所 客員研究員
- ・N PO 法人しらかわの会 理事・事務局長 など。

猿渡 進平 氏

定時社員総会后、2023年度社会福祉セミナーを開催しました。今年は福岡県大牟田市から猿渡進平氏をお招きし『地域包括ケアから地域共生社会へ』～制度の枠に縛られないソーシャルワーカー～をテーマに講演をしていただきました。

猿渡氏は地元の大牟田市で認知症高齢者が地域で安心して生きることが出来るまちづくりのため、様々な活動を実践してこられました。

特に認知症SOSネットワーク模擬訓練(徘徊模擬訓練)では大牟田市福祉課、地域包括支援センター、社会福祉協議会、民生委員、医療機関、

介護事業所等の専門職が地域のために協働し、訓練を2004年から15年以上実践されました。当初の参加者は10名足らずでしたが、近年は200名以上の方の参加があったそうです。

地域住民に認知症への理解を深める「啓発」と地域の「連絡網(セーフティーネット)」を構築するための訓練をすすめ、地域で認知症に対する見守りの体制ができあがり、認知症になっても安心して暮らしていけるのではと考えていましたが、猿渡氏が違和感を感じる事例が発生します。



社会福祉セミナーで大牟田市での取り組みについて説明する猿渡進平氏



熱心に講師の話に耳を傾ける社会福祉セミナー会場参加者の皆さん

本当は認知症があってもまだできることはたくさんあるのに、訓練の時のように、見守りや保護をすることが先になってしまい、地域住民どうしの積極的な見守りや声かけを負担に感じてしまった認知症の方が、自宅に引きこもったり、施設へ入所したり、別の地域へ引っ越ししたりする事例がありました。

認知症の方を積極的に見守る対象として訓練してきたことが、このような事例を作ったのかもしれないと、関係機関の専門職の皆さんと何度も一緒に話し合い、一緒に悩まれたそうです。そうした事例をうけて、認知症のご本人が本当にしてほしいこと、やりたいことが何なのか、認知症の当事者の「本人の声を聴くこと」に立ち戻ることになりました。



質問に丁寧に回答する猿渡進平氏



講師に質問する参加者

現在は、認知症にやさしい図書館&博物館プロジェクト、認知症にやさしいショッピングモール、認知症の人の就労など、地域の企業関係者や行政関係者、高齢者福祉関係者が一つになって、認知症のご本人と一緒に、認知症の方がやってほしいこと、やりたいことを実現していき、様々な機会の創出に尽力しておられるそうです。

「地域共生社会はForからWithへの転換」であるという言葉が非常に印象的な講話でした。会場やオンラインから積極的な質問や講話の内容に共感する感想が多く寄せられました。

「社会福祉セミナー」とは

一般社団法人熊本県社会福祉士会では、一般県民や医療・保健・福祉の関係者に対して、高齢者福祉、障がい者(児)福祉、児童福祉、医療などの分野の動向や最新の情報などを提供し、福祉サービスの利用促進と質の向上を図るために、有識者の講演会や実践者の発表などを年に1回以上、開催しています。なお、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により、オンライン形式または会場との併催のハイブリッド形式等により開催しました。

実践を言語化できる社会福祉士に

第31回 日本社会福祉士会 全国大会 社会福祉士学会 大分大会 参加報告

研修委員会 竹永 有希



会場の別府国際コンベンションセンター

2023年7月1日～2日、別府国際コンベンションセンターにおいて開催された第31回日本社会福祉士会 全国大会 社会福祉士学会 大分大会に参加しました。

今回は『現実社会と向き合うソーシャルワーク —「たがいに・ささえあい・つながり」を目指して—』をテーマに様々な講演・シンポジウム・分科会やポスター発表により全国の社会福祉士が学びを深めていました。

私が特に印象的だったのは、第1日目に参加した全国大会プレ企画「実践研究入門講座」です。事前課題を頂き、実践事例のまとめ方や書き方の適否について、グループワークを交えながら取り組みました。実践力のある社会福祉士の要件として「実践」を言語化できることが求められており、日々の実践に研究的な視点を持ちながらあたる姿勢は倫理綱領にある「最良の実践を行う責務」の具現化でもあり、「総括」を繰り返しながら「実践」する過程で自らの実践を他者

や世に問うことは社会福祉士の力量形成において重要であることを学ばせていただきました。

また、第2日目に参加した分科会では、様々な環境で活躍されている全国の社会福祉士同士が、発表者と参加者として互いに熱く語り学び合う姿を目の当たりにしたことで、自分自身も刺激を受けました。

援助職としての自分の姿勢を振り返り、社会福祉士として永遠に自己研鑽し続けなければならないことを改めて痛感することが出来た貴重な機会となりました。

最後に、尊敬する先輩方と一緒に関アジ関サバを美味しく味わいながら楽しく過ごせた有意義なひとときにも感謝です。ありがとうございました。



「全国大会」とは

公益社団法人日本社会福祉士会および都道府県社会福祉士会が年に1回、社会福祉士会員やソーシャルワーカーを対象とした実践報告や自己研鑽、ネットワーク構築等を目的に開催しています。大会ごとの大会テーマを定め、全国的な社会福祉関連の動向やポスター発表、分科会での報告など日々の実践を振り返る機会となっています。

「かたりば in 人吉・球磨」～ロングバージョン～

人吉・球磨ブロック、災害時支援委員会、会員サービス委員会コラボ企画

災害時支援委員会 委員長 遠山 健吾

7月22日～23日、人吉カルチャーパレスにおいて開催され、20名の会員が参加されました。人吉・球磨は、3年前の豪雨災害で甚大な被害に見舞われた地域であり、災害をテーマに研修を行いました。

1日目『かたりば～あのとき～』は、人吉市社会福祉協議会の松岡誠也氏など、2人の講師から、令和2年7月豪雨の発災及び被害状況、災害ボランティアセンター活動等についてお話し頂きました。その後、ワールドカフェ形式で災害(体験談、被災者支援、備え等)について思ったことや考えたことを皆さんと語り合い、振り返ることができました。

2日目『かたりば～これから～』は、当委員会より委員会活動や球磨村支援を通じて感じた課題の報告後、人吉・球磨ブロックの3名の方それぞれより、豪雨災害時の自身や職場の状況、学んだこと、これからについて等、詳細に語り話して頂きました。最後のグループワークでは「災害に備えて今やっていること」をテーマとして、個人、家庭、地域、職場、社会福祉士の様々な立ち位置で既に備えていること、今後取り組みたいことについて皆さんで考えました。

2日間を通じて、改めてあのときの豪雨災害を振り返り、これからの災害時の備えや支援を深く考え、語り合うことができました。特に、人吉・球磨ブロックの3名の方の話を「言葉」として聴くことができ、充実した研修となりました。



グループワークの様子



2日目の集合写真

八代ブロック研修で災害支援ソーシャルワークの講話を実施

伝える機会をいただき感謝！ 八代市社会福祉協議会 松山 弥史

6月30日八代ブロック地域公開セミナー「熊本地震豪雨災害復興と災害支援ソーシャルワーク」にて登壇する機会をいただきました。ここでは、話をした内容の一部をご紹介します。

令和2年7月豪雨では当時、国道の通行止め等で、坂本町へはメディアも現地に入れず、報道も少ない状況でした。被害状況を知らない方が多く、被災状況と災害ボランティアセンター(以下、災害VC)のを中心に話をしました。深水橋が流される瞬間の映像や休日には子ども連れで賑わう『くま川ワイワイパーク』の辺り一面海状態の写真に皆さんビックリされていました。

コロナ禍初の災害VCであり、県内限定募集にも関わらず9,000名のボランティア。Amazon欲しいもののリストを活用し、全国からメッセージ共に大量のドリンクが届きました。坂本町支援団体連絡会議を行い、[オール坂本]で復旧活動をしたこと等々を思い出します。

災害VC運営に関するクレームの電話も、現状をFacebookでアップしたらピタリと止まり、改めてSNS発信の大切さも実感させられました。

復旧活動では「泥を見ずに人を見よ」という言葉があり、あくまで土砂出し等は生活再建のスタートラインに立つまでの過程であって、その後の被災世帯の状況を見据えた相談支援が必要であり、引き続き地域支え合いセンターとして支援していることなどをお伝えさせていただきました。この度は貴重な機会をいただきまして有難うございました。



後見人等の「死後の事務」を学びあう

2023年度 第1回 ぱあとなあ 必須研修 参加報告

広報委員会 中村 敦子



7月15日、ぱあとなあ熊本(成年後見委員会)の必須研修が対面25名、及びオンライン65名の参加で開催されました。

はじめに松本健一理事から挨拶があり、今日の

講義を聞いて、被成年後見人が死亡した時に親族と連絡が取れ難いなど、死後の対応で会員が苦勞している事を話し合い、明日からの後見業務に生かしてほしいと述べられました。

講義1 「死後事務について」 講師:小柳 久美子 副委員長

講義1の「死後の事務について」は、会員アンケートでも講義してほしいという要望が多く、質問・不安の声が多い現状があり、少しでも会員の負担が軽減できるように企画されました。

具体的には、民法改正や死後事務の時間的な流れ、義務的事務(終了の事務)と、それ以外の死後の事務について学びました。相続人がおこなう必

要がある死後の事務を、義務でない後見人等が行う場合は、根拠を明らかにして条文を確認しながら慎重に行う必要がある事や、受任直後からの死後事務の備えと親族との関係構築が重要であり、推定相続人調査については、トラブルを回避するために必ず死亡後に戸籍調査で正確に確認することの大切さなど、お話いただきました。

講義2 「管理財産の引き渡し」 講師:木野 寛子 副委員長

講義2は会員からの質問や意見が多かった推定相続人調査・相続財産引渡しの講義でした。

被後見人等の死亡により後見等は終了し、財産は相続財産として管理権限が相続人に移行します。家庭裁判所への死亡報告(管理計算、報酬付与申立)や後見等終了の登記が終わったら、相続人へ管理計算の報告・管理財産を引渡すことが後見人等の義務となります。

相続人調査は、出生から死亡までを調べ、戸籍上の法定相続人を確定します。離婚や転籍が多い方や、子の認知・遺言状の有無、調査のポイント、相続人への手紙の書き方などの説明があり、2023年4月1日施行の改正「相続財産管理制度」についても説明をいただきました。

グループワークでは、「死後事務で確認したい事、聞きたい事」のテーマでファシリテーターの助言を受けながら、日常の活動で困った事などを活発に話し合い、グループ内で出た疑問は最後に全体で共有しながら考えました。お互いの活動内容を聞き、とても参考になりました。



グループワークの様子

菊池・阿蘇ブロック 研修 参加報告

広報委員会 古川 幸太

7月15日に大津町老人福祉センターで菊池・阿蘇ブロック研修会(第1回)がありました。大津町社会福祉協議会 事務局長 松木雄一郎さんを講師に、「社会福祉士について考える」～ソーシャルワーカーとは?～というタイトルで12名が参加しました。

コロナ禍で顔の見えるつながりや、人のぬくもりを感じるつながりの希薄化が顕著になっており、職場内でひとり社会福祉士の場合も多く、支援を行う上で視点がぶれがちで相談や助言ができる場が少なくなっています。

そこで、今回の研修で、社会福祉士としての使命や役割、日頃抱えている疑問や悩み、課題等を考え、出し合える場で「社会福祉士について考える」ことになりました。



グループワークの様子

主に、3つのテーマでグループワークを行い、様々な意見がでました。

(1)あなたが思う理想の社会福祉士像とは?(理想像やイメージ)

- ・社会福祉士は専門職であり、知識、経験が豊富かつ学び続けている人。
- ・社会福祉士は様々な職場にいる。

(2)ソーシャルワーカーとしての現状と相違は?(イメージと現実のギャップ)

- ・ソーシャルワークのスキル(傾聴力、要約力、動機づけ)の不足。
- ・支援に直結する現場ではないので、社会福祉士としての意識、視点を持ち続けるのが難しい。
- ・社会福祉士って何だろう?(一人だと悩む)

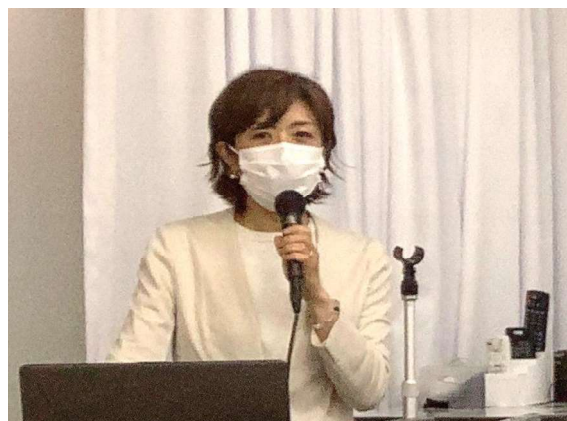
(3)スキルアップの方法は?(イメージとギャップを埋める方法)

- ・社会福祉士が職場内に複数いることで、困った時にお互いが高められる(相談できる)。
- ・様々な研修会に参加し、色々な社会福祉士の方々と話すこともスキルアップにつながる。

この研修を通して、私自身の日々の実践を考え直すきっかけにもなりましたし、この研修に参加された方々との新たな出会いやつながりもありましたので、とても充実したものとなりました。

宇城ブロック・熊本市南ブロック 合同研修 参加報告

熊本市中央ブロック 中川 弘美



講話をする足田真紀先生

私は、2023年3月に社会福祉士になったので、2023年4月に社会福祉士会に入会して、今回はじめて、社会福祉士会の研修会に参加しました。

今回の研修は、「コロナ禍後の支援者への心のケアについて」でした。

講師である足田(ひきた)真紀先生のお名前は、私の職場で知っていたので、どんな研修になるのか、とても楽しみにしていました。コロナ禍になってから、私たちの支援が思うようにできないことへのストレスを感じていたので、心のケアの方法を知りたいと思っていましたからです。

研修は、自分のストレスがどの様に出るか知っているだけで、ソーシャルワーカーがバーンアウトしないことについてのひとつの方法についての話でした。

先生のお話で、心に残ったのは、「できないことへの原因探しをするよりも、自分の強みに目を向ける」ということでした。そして、グループワークで、自分の強みを他の方に見つけてもらえて、とても嬉しかったです。

その後、名刺交換会になりましたが、皆さんとてもフレンドリーで、さすがソーシャルワーカーだと思いました。研修で、たくさんの人と知り合い、ネットワークを作りたいと思いました。

information

◆熊本市南ブロック・宇城ブロック合同研修の案内について

日時:2023年9月23日(土・祝)15:30~17:00

場所:宇城市松橋総合体育文化センター
ウイング松橋 視聴覚室
宇城市松橋町大野85



会場のウイング松橋

内容:『ヤングケアラーの理解と支援について(仮)』

講師:熊本県健康福祉部 子ども・障がい福祉局
子ども家庭福祉課 松田 課長補佐
堀 主事



定員:40名 他ブロック会員の参加可

(申込み多数の場合は熊本市南ブロック・宇城ブロック会員を優先)

申込:申込みフォームにて9月10日までに(その後の申込は要相談)
お申込みください。

情報交換会

会場:未定

(ウイング松橋近辺で調整中)

時間:17:30~



※スマホやタブレットで下の2次元コードを読み取って、
お申込みフォームに必要事項をご入力ください。
※ご記入いただいた個人情報は、本研修会及び情報
交換会の目的にのみ使用いたします。



申込みフォーム



つぶやき

私は今年で47歳になります。今年の3月、身長174cm体重が84kgありました。15年前は70kgぐらいで高校の頃は運動する部活をしていて74kgぐらいでした。近年は毎年「腹囲オーバー・高血圧症・脂質異常症」の常連でもあるし、職場のユニホームもはちきれんばかりで、これではだめだと思い、3月からある仮説をたてて取り組んでいます。

『毎月、自分の体重ぐらいジョギングする人に肥満はいない』です。3月から毎月80km、アプリを入れたiPhoneを握って6分~8分/kmぐらいでジョギングしています。約11~12回/月運動する機会を作っています。

最初は辞めそうで、15km先のJR駅まで電車で移動して走って帰るしかない場面を設けて追い込んだりしていましたが、最近はアプリで走った距離、ペース、走った地図などをデータを見るのが楽しくなっています。

経過ですが、7月に健康診断があり、体重は82kgで-2kgしか変化ありませんでした。血液はどうかわかりませんが、1年間とにかくやってみます。「目標があれば、人は努力できる。妄想は偉大な原動力。」です。

運動はいいですよ。

広報委員会 村上良三

